



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 83 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063



府中市立府中第二中学校

校長 三浦 登

連携を通じた 「学校力」の向上

本校は府中市の東端に位置し、昭和22年4月に開校して今年で63年目を迎えた。

春には、南参道の桜並木が目を楽しませてくれる。住宅地ではあるが、緑が豊かで畑も多く点在している。

学級数は、通常学級16に特別支援学級3学級を加えて19学級である。府中市の中でも大規模校に類すると思われる。

「安心」と「安定」

本校の長い歴史の中では、文武両道が充実した時代と生活指導の課題を抱える時代とを繰り返しており、当たり前である安心で安定した学校づくりが本校の命題である。

安心で安定した学校づくりは、多様化した現代において、学校だけでできることは限られてきており、学校に外部の力を取り入れる連携が必要だと感じている。

本校では、「連携を通じた『学校力』の向上」を主題に平成18

年度より研究を進め、今年度も継続している。家庭・地域に加え小学校や特別支援学校、諸機関等との取組みを進めている。

授業がわかる・できる

学校力のベースとなる学習活動では、

- (1) 授業改善
全教員が2年に1度の研究授業を実践し、教科ごとに外部講師を招へいして研究授業をする。
- (2) 家庭学習力の向上
基礎的・基本的学習内容の確認テストを長期休業後に実施する。

家庭での学習時間を記録する学習マラソンを全学年実施する。

- (3) 評価の改善
評価方法を明示した「評価のあらまし」を作成して家庭に配布する。今年度より、各教員が学期ごとに自らの評価内容を考察し、評価精度を高める。

- (4) 道徳の充実
全学年で外部より講師を招へいして研究授業・校内研修会を

行い、保護者参観を呼び掛ける。

- (5) ボランティア活用の充実
地域や保護者の方々によるスクールボランティア制度を各種検定や補習授業に活用する。

小学校との連携

「地域の子供を9年間で育てよう」を合言葉に、第十小学校と白糸台小学校との3校で連携を進めている。

- (1) 小中交流会
年に3回、中1ギャップや教科、生活指導等について授業参観と研究協議、講師を招へいしての研修会を行う。
- (2) 生活指導推進協力員
本校と2小学校には、生活指導連携推進のために府中市教育委員会から「生徒指導推進協力員」が配置されている。協力員が3校を巡回して、課題を抱える児童生徒の指導に役立ててきた。

具体的な成果事例として、小学校時代の様子や指導、友人・家庭環境等の情報を得た的確な

指導が可能となり、中学校の取り組みや変容を小学校に伝え、教員同士の交流や相互理解を高めた。

- (3) 出前授業・部活指導交流
数学、英語等の出前授業で小学校の様子が分かった。

連合陸上やタグラグビーの指導を部活動の生徒が行い、互いに理解を深めた。

地域の特別支援学校との連携

専門家である特別支援教育コーディネーターに生徒の実態を観察してもらい、校内研修や特別支援委員会等で理解方法や具体的な対応についての支援を受け、学級での適応指導、基礎・基本の定着に課題のある生徒対応に役立った。

今後に向けて

連携により「学校力」は徐々に高まってきている。

授業規律は確立され、朝読書は全員が8時25分に取り組む姿は清々しく、学力調査の結果にもつながっている。

本校のスローガンである「学び」と「思いやり」を、教師、生徒、保護者、地域に連携で根付かせ、よりよい学習環境づくりに努める所存である。

府中市立小学校 六年生陸上記録会

自分の目標の 達成を目指して

10月7日(木)・8日(金)

府中市民陸上競技場において、府中市立小学校陸上記録会が開催された。この陸上記録会は、府中市立小・中学校教育研究会の文化祭行事の一環として、毎年実施されているものである。

- 記録会は、
- 記録会を通し、各校児童の親睦を図る
- 陸上運動に対する意識を高め、陸上運動の技能の向上の一助とする
- 指導法の研究の場として活用する

という目標のもと、市立小学校22校の六年生が参加して行われている伝統行事である。

Aブロック (10月8日) 午後

第二小、第五小、第七小

第八小、第九小

Bブロック (10月8日) 午前

第四小、第六小、第十小

矢崎小、南白糸台小、四谷小

Cブロック (10月7日) 午前

第一小、武蔵台小、住吉小

新町小、小柳小、日新小

Dブロック (10月7日) 午後

第三小、本宿小、白糸台小

若松小、南町小

競技種目

100メートル走、800メートル走

50メートルハードル走、走り幅跳び

400メートルリレー (学校対抗)



開会式「あいさつ」第一小 叶 雅之 校長

7日の午前の部では、開会式の中で、第一小学校叶雅之校長より「新町小、小柳小、武蔵台

小、住吉小、日新小、府中第一小の六年生の皆さん、おはようございます。

さわやかな秋空の下、これから陸上記録会を行います。

府中の小学校は、4つのブロックに分かれて記録会を行っています。今日は、4つのブロックのうちで新町小、小柳小、武蔵台小、住吉小、日新小、府中

第一小の六年生の皆さんがいるCブロックが、一番最初に互いに培った力を競い合います。

ぜひ、正々堂々と力いっぱい、今までに培った力を発揮してください。

オリンピックの野球でもワールドカップのサッカーでも、強い相手と戦い、競い合うことで、さらに自らの力が伸びるものです。

また、この陸上競技場は、皆さんの学校の校庭よりも、よい記録が出るコースでもあります。

ぜひ力一杯走り、そして跳んで、最後まであきらめずに、全力で競技をしてください。

皆さん自身の最高記録が生まれるチャンスでもあるのです。

また、今日一緒に集まった他の学校の人たちは、来年中学校に行ったときに、同級生になったり、対外試合や文化行事など、さまざまな形で出会ったりする友達です。

ぜひ、同じ府中に住む友達として仲良くしてください。

そして、競い合う中でも、互いに一生懸命頑張っている姿に声援を送ってください。

一生懸命に取り組む姿、頑張っている姿は、見ている人に感動を与えます。

皆さんの感動を与えるような活躍や頑張りを期待しています。」

という励ましの言葉があった。

続いて、府中第一小の若尾一輝くんの児童代表あいさつと府中市教育委員会指導室国富尊指導主事のあいさつがあり、この

後、東京学芸大学陸上競技部学生による走り幅跳びとハードル走の模範競技が行われた。

いよいよ競技の開始である。800メートル走、走り幅跳び、100メートル走、50メートルハードル走の4種目に分かれ、それぞれ全力を出



競技前の準備運動

し切って競技を行った。最後に、各校代表選手による学校対抗400メートルリレーが行われ、白熱したレースに会場は大変盛り上がり、終了した。六年生にとっては、秋晴れの下、素晴らしい競技場で他校の友達と競うことにより自分の目標の記録に挑戦し、大変良い思い出となった記録会であった。



男子走り幅跳び



女子800メートル走

わが校の特色ある教育 No. 49

人と自然に支えられた 武蔵台教育

府中市立武蔵台小学校

副校長 野澤 由美

緑の森と遺跡の公園に囲まれた武蔵台小学校は「びちびちわくわく 学びの楽校」をモットーに、オンラインワンの教育活動を展開している。

緑豊かな国分寺崖線の自然を教科書にした「発見武蔵台」等の体験活動、『世界の仲間と手をつなぐ』Joining hands in Friendship.』をテーマとした「Hello!」で始まる楽しい英語活動、都立武蔵台特別支援学校や保育園・信愛泉苑との交流活動、自校給食を生かした食育、どの活動も地域の方々と共に作

り、継続してきた教育活動である。

☆裏山を教室に、

自然体験活動を！

梢をわたる風の音や森に漂う香り、木々の葉の間から見上げる空の青さ、太陽が当たる幹の温かさ等を体全体で感じるネイチャーゲーム。指導員の資格を持った教員を中心に行う生活科「裏山たんけん」。一・二年生は裏山が大好き。

「発見！武蔵台」では、三年生が府中自然観察クラブの方々と共に四季折々の植物・昆虫・野鳥を観察し、武蔵台の自然を満喫する。



うら山は みんなのもの

五年生は、府中市公園緑地課及び府中緑の推進委員の方々と共に裏山の下草刈り・枯れ枝やごみ拾いをする。そして裏山の自然をみんなで守ろうと呼び掛けるポスターを作り、毎年掲示してきた。豊かな自然に触れることで感性を磨くだけでなく、自然との共生を発信する活動に発展している。

☆「Let me try!」を合言葉

に、コミュニケーション力

アップ

「Hello!」「Hi!」キッズイングリッシュルームに入るとそこは英語だけの世界。子供たちは一年生からALTと触れ合い、短いフレーズやジェスチャーのみでも成り立つコミュニケーションの楽しさをたっぷり味わっている。

ここでは担任やALTや友達と英語に触れているうちに、思わず英語を発話したくなるような活動が展開されている。

「Any volunteer?」の問いかけに「Let me try!」と手を挙げる子供たち。

授業のほかにも、朝の時間に全校で英語番組を視聴したり、清掃時間には英語の歌が流れたり、普段の生活の中で英語の音やリズムを体得できるように工夫している。

また英語活動で培ったコミュニ

ケーション能力をさらに生かすために、国語科において「自分の思いや考えを自分の言葉で表現し、伝え合う子ども育成」の研究を進め、昨年度、その成果を全市に発表することができた。これらの取組みの結果、臆することなく自分の考えを述べる児童が育ってきている。



“Can I have a ruler?” “Yes, of course.”

☆交流活動で気付く、

「みんながって みんないい」

都立武蔵台特別支援学校が武蔵台に開校されて以来、四年生が直接交流を行ってきた。図工作品を展覧会や文化祭で相互展示することも続けている。都立府中特別支援学校及び同校くぬぎ分校との副籍交流も行っている。

また、一年生は来年入学する地域の保育園児を迎えて学校案内し、三年生は信愛泉苑のデイサービスを利用する方々と2回の交流会を計画・実施している。さらに全学年で毎年1回、聴覚障害の方と学ぶ手話教室を開き、一年生は校歌を手話をしながら歌えるようになる。これらの交流活動を通して子供たちは、自分とはちがう年齢や様子の人たちがいて、それぞれが自分の良さを生かしながら一生懸命生きていくことに気付き、相手を大切にすることを学んでいる。

☆自校給食を生かした食育

地元農家から届いた朝採りの空豆や枝豆・トウモロコシ、学校のゴーヤやキュウリ・ブロッコリー・大根など、自分たちが育てたり皮をむいたりした旬の野菜が給食に出ると「おいしいね!」と感激。野菜が好きな子供が増えている。

また、中学年ではおやつ選び方を考え、高学年では栄養バランスのとれた朝食や夕食献立を考え、金メダルをとった献立が実際に給食に出されるなど、自校給食の良さを生かした食育が行われている。



わが校の特色ある教育 No. 50

みんな楽しみ 住吉小フェスティバル

府中市立住吉小学校
主任教諭 鈴木 祐子

本校では、毎年6月に住小フェスティバルを開いている。平成元年から続けている行事である。今年も6月30日に行った。当日は学校公開にもしてあるので、保護者や地域の方々も多く参加した。

1 ねらい

この行事は、三年生以上は、「友達と協力して課題を解決していく力を育てる。」一・二年生は、「三年生以上の活動を見て学び、体験をすることによって、よりよいものを作り出す喜びを



《4年「地球を守ろう！エコ商店街」の発表》

共有する。」というねらいで行っている。さらに、二年生には、「一年生を案内することで思いやる気持ちも育て、二年生としての自覚をもたせること」というねらいがある。

2 内容

毎年、三年生以上が、自分たちで考え工夫を重ねた模擬店を開く。これまで、「人間すゝろく」や「住吉米ニerland」・「タイムスリップ日帰りヒストリーツアー」・「ミラクルワールド」など様々な模擬店が開かれている。今年度も、5月の初めから、話し合いを通して模擬店の内容

を決めた。話し合いを重ねたり、準備をしたりする中で、みんな協力し合う大切さや楽しさを学び、課題を解決していく力を付けてきた。

今年の四・五・六年生は、総合的な学習の時間や、社会・理科で学習したことを、様々な形で伝えようと取り組んだ。

三年生は、代表委員を中心に、初めての模擬店をどう運営するか話し合いながら、より良いものを作り出していった。

その結果、三年生は、的当てやくじびき・クイズ・ホッケー・うらないなどの模擬店になった。

四年生は、「地球を守ろう！エコ商店街」という名前で、リサイクルに関係することを発表したり、ゴミ減量に関するゲームを開催したりした。

五年生は、「ハケ岳 イン ワンダーランド」という名前で、実際に行ってきたハケ岳での体験を基に発表したり、お客さんに体験してもらったりした。

六年生は、「踊るガイコツ大作戦！〜ピロティを封鎖せよ〜」という名前で、体の仕組みを調べたことを発表した。

一・二年生は、たてわり班を利用したグループで、前半だけ一緒に行動した。二年生にとつては、一年生を案内することで、二年生としての自覚をもてた。

お客さんとして楽しみながら、自分たちも三年生になったら、こんな模擬店を開きたいなどと考えるながら模擬店を回っていた。

また、この住小フェスティバルの間、一・二年生の教室の前に、一・二年生と一緒に作った七夕飾りを飾った。このことにより、ただお客さんとしてだけではなく、自分たちも参加しているという気持ちをもたせることができた。

三年生から六年生は、お客さんに楽しんでもらうという喜びを感じ、下級生の世話をすることがとてもよい経験となった。

今年度は、学校でごみを出さない工夫もしてきた。「家から持ってきた段ボールなどは、持ち帰る」、「余計な飾りを作らない」、「片付けるときに分別して、できるだけリサイクルする」などの工夫により、前年度までよりはごみを少なくする努力ができた。

3 代表委員会

住小フェスティバルで忘れてはいけないのは、代表委員会の活動である。

各クラスで考えてきたスローガンから、話し合いによって一つのスローガンに

まとめ上げた。さらに、模擬店の内容や場所の調整、ポスターの掲示、開会式や閉会式の司会進行、しおり作り、途中の交代の放送など、やることは盛りだくさんである。

代表委員は学年やクラスの模擬店の仕事だけでなく、これらの仕事を分担して行った。

4 おわりに

この行事は、子供たちが毎年大変楽しみにしているものである。新学習指導要領が完全実施される来年度以降も、何らかのかたちで住小フェスティバルを継続して実施していく予定である。



《6年「踊るガイコツ大作戦!!」の発表》

小学生科学教室

多摩川の自然観察

～事前学習から野外観察へ～

小学生科学教室事務局
担当 松浦 泰之

6月19日(土)

今日は、多摩川の自然観察①

の事前学習のため、東京農工大学の普後一教授に、お話をしていたいただいた。大学での研究と小学校の昆虫の学習を結びつけ、児童が昆虫に興味をもつようにしようという計画である。

今回は、カイコの1年間の生活の様子とカイコの変態についてお話があった。卵↓幼虫↓蛹(さなぎ)↓成虫と完全変態すること。繭(まゆ)の中で、脱皮をしながら蛹になること、などだった。特に児童の興味を引いたのはカイコが食べる桑の葉の色素が繭の糸に伝わり、黄色、紅色、笹色の繭が出来るということだった。

しかし、残念な事に糸を引く

時にお湯に溶けてしまうので糸にはほとんど色は付かないとのことであった。その後、カイコの食べる桑畑の1年間の様子についてもお話があって、小学生科学教室第2回目の学習を終えた。

◆児童の感想より

・私は、三年生の時にカイコを飼った事があったので、先生のカイコの説明はとてもよく分かりました。

・カイコの体の仕組み、繭の色、カイコの種類などわかりやすい説明で、カイコの勉強をさせてもらいました。また、やりたいです。



普後先生の「カイコ」についてのお話

6月26日(土)

第3回目は、関戸橋近くの河原で昆虫採集をした。普後先生は学生を数人連れて来られて、実際に昆虫の採り方を教えてく



多摩川関戸橋付近での「昆虫採集」

ださった。沢山採れた所で児童と教員と学生とみんなが一緒になってどんな虫が採れたか図鑑で確かめた。

この日は、ゴマダラカミキリ、マメコガネ、クビキリギス、モンキチョウ、モンシロチョウ、ハグロトンボ、ウスバキトンボ、トノサマバッタ、ショウリヨウバッタ、ベニシジミ、ウマオイ、その他にカマキリの卵など多くの昆虫を捕獲した。

◆児童の感想より

・虫が苦手でチョウチョもさわれなかったけどチョウチョがさわれるようになってよかった。チョウチョをさわった時、翅が温かかったからびっくりした。

・虫を捕まえて特徴を教えるもなかった。虫はどこをつかめばよいか、教えてもらった。チョウウを三角紙に入れる練習をした。

・虫の捕り方、バッタやチョウ、トンボの網からの取り出し方も教えてもらった。

今回はシロチョウやハグロトンボを三角紙に入れて持ち帰った。次回の顕微鏡観察の教材にするためである。

7月10日(土) 第4回目は、

事前学習②の日である。今回は顕微鏡観察を授業に組み入れていたので、普後先生のお話も「チョウの鱗粉(りんぷん)」を観察してみよう」になっていた。最初は蝶の名前であてクイズである。質問には、アゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キチョウ、オオムラサキ、アサギマダラ、ヒョウモンチョウ、などが出てきた。

そして宿題も出た。宿題①オオムラサキは、日本の国蝶です。他の国の国蝶はどんなチョウがいるでしょう。宿題②昆虫の「はね」は「羽」と書かないで「翅」の漢字を使います。なぜだか調べてください。

先生のお話は、チョウの翅の模様は鱗粉が並んでできていること。チョウの翅の模様は表と裏では違いがあること。鱗粉にはいろいろな形の鱗粉があること。何のために模様があるのか。最後に、蝶の擬態についてのお話もあった。

◆児童の感想より

・トンボやチョウのはね等、色々な物を顕微鏡で見た。チョウの話も伺ってクイズもした。宿題もある。来週はとても楽しみに、休みたくない。

・「チョウはあの鱗粉がないとどうなるのかな」と思いました。多摩川の自然観察②がもうすぐある。子供たちは次回の多摩川での自然観察を楽しみにしている。お天気に恵まれた楽しい野外観察にしたいものである。

顕微鏡による「鱗粉」の観察



※宿題の答え

①マレーシアでは、ラジャブルックという国蝶がいる。

②昆虫の「はね」は鳥やコウモリのように足が変化したものではないので、それらの「羽」と区別して「翅」の文字が使われる。

	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
11月研修会・委員会等予定	1	月	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	報告書作成等について
	8	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
	8	月	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
	15	月	食育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
	15	月	幼稚園教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	16	火	初任者等研修	学 校	授業参観・協議
	16	火	進路指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	16	火	人権教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
	22	月	学校図書館指導補助員研修	教 育 セ ン タ ー	ブックトーク等についての研修
	24	水	主幹教諭研修	教 育 セ ン タ ー	研修「ミドルリーダーの役割」
	24	水	食育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
	25	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会



子供たちへの教育において、褒めて伸ばすことが望ましいこととは言うまでもない。それは、適切に褒めれば、子供の意欲や自信を高めることができるからだ。しかし、本人が気付いていない成長のポイントに気付かせる指導も時には必要である。その一つが「叱る」である。

子供が誤った思考や行動をしているにもかかわらず、そのまましておくと、その子の成長の機会を奪うことにもつながる。叱るとは、誤った思考や行動等の改善提案であり、自己を振り返らせるとともに、望ましい行動を促す動機付けと言える。

とはいえ、叱る際には、抵抗を感じる人も多いだろう。それは、教師自身が「叱られる＝不愉快」という体験をもっていたり、「叱る＝嫌われる」というイメージを抱いていたりするからである。では、どのように叱るといいのだろうか。先日、

『叱る』考

参観した小学校の授業場面に参考となる。
先生「(定規を使わないで四角形を書いている子供を確認して) 定規を使って書きなさい。」
子供「(あわてて定規を使って四角形を書き直す)」
先生「やり直すのは大変だけどよくできました。うれしいよ。定規で書くと、四角形の特徴にも気付けたでしょう。」
子供「(うなずき、一層、意欲的に学習に取り組む)」

この場面は、①教師から改善を促す②子供は自己を振り返り、行動を改める③教師は子供の改善をすかさず見取り、ほめる④子供は達成感を得て意欲的になる。という流れであった。
叱ることで相手を不快にさせるところを見事に快になっている。叱られた結果、自己の成長や達成感、やりがいを感じられる言葉掛けや伝え方の工夫をすれば、叱ることは大いに効果がある。

子供は成長したい、自己実現したいという欲求をもっている。子供の可能性を引き出す叱り方を身に付け、実践したいものだ。
(指導主事 国富 尊)

学びの窓

武蔵国府跡御殿地区(仮称)の調査

文化振興課文化財担当副主幹 江口 桂
平成20年度から行われていた本町1丁目14番地のJ R府中本町駅前開発に伴う発掘調査では、古代、中世、近世の各時代で本市の歴史を象徴するきわめて重要な遺構が発見された。古代では、武蔵国府に都から派遣される国司(こくし)という役人が宿泊滞する施設である国司館(こくしのたち)とみられる遺構が良好な状態で保存されていたことから、既に国史跡武蔵国府跡として指定されている範囲の追加指定を受けるとともに、公有地化を行い、将来にわたって本市の貴重な文化財として保存及び活用していくことが決定した。

また、当該地からは、これまで詳細が不明だった徳川家康の「府中御殿」の関連がうかがえる規模の大きな建物跡や柵跡、井戸跡が発見されている。家康自身の在世中の遺構そのものが土中に保存されている事例として稀有なものである。
今後は、市民等の意見を幅広くうかがいながら、府中ならではの貴重な史跡の保存及び活用に努めていきたい。

あとがき

紅葉が山々を彩る季節、11月を迎えた。自然が織り成す季節の芸術は、人々の目を楽しませ、心に感動の調べを奏でてくれる。▼ところで、子供たちは、日ごろ様々な体験を重ねている。学校や家庭での生活、地域社会での活動など、その時々々の感動体験が心を耕し、その眼を育て、生きる力を培っている▼公方俊良さんの著書の中に、「禅語に『生命は呼吸の間にあり』というのがあります。人の命はわずかであるということの意味する言葉ですが、短い人生だからこそ、心温まるよきことで満たしていきたいものです。人生の最大の宝は、心ふれ合う人を得ることです。そのためにはまず、相手の心に思いやりという種を播くことです。」という内容がある▼人間は社会的な存在であり、一人だけで生きることができない。互いに支え合い助け合って生きていくことの大切さを、子供たちに体験的に身に付けさせることが重要である。そのためには、家庭、学校、地域の大人が、子供一人一人の気持ちや言葉に共感できる感性をもつことが大切ではないだろうか▼相手を思いやる優しい心と行動は、相手に伝わる。(小澤 宏)